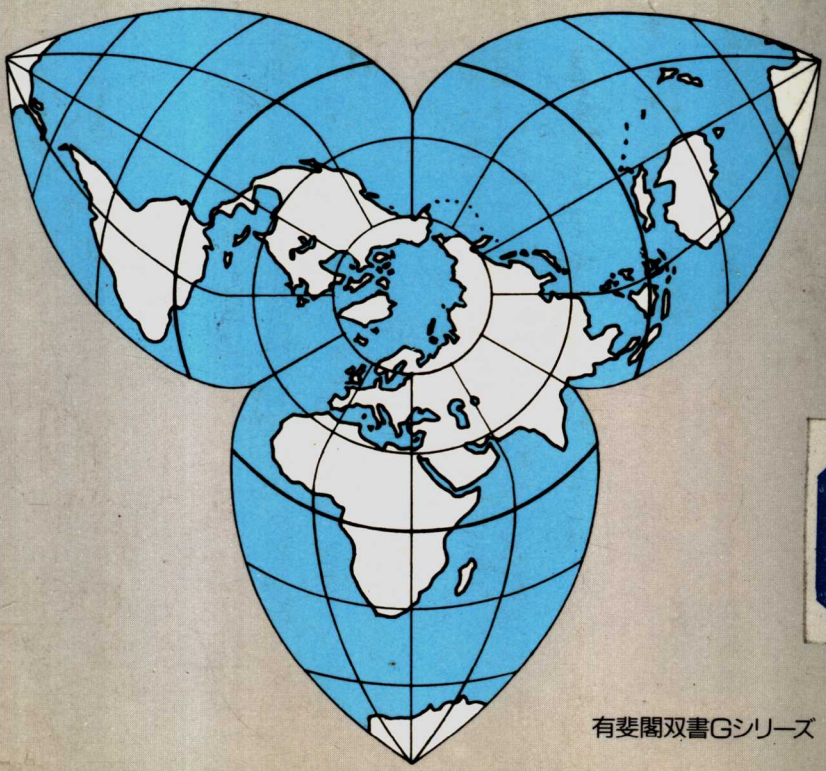
General Education

Series

米澤義衛・原田　泰 著

国際化時代の日本経済

経済学入門 1



有斐閣双書Gシリーズ

国際化時代の日本経済

米澤義衛
原田　泰　著

有斐閣双書Gシリーズ

既刊・近刊案内（＊は既刊）

＊環境科学への扉

日本環境学会編集委員会 編

＊国際化時代の日本経済—経済学入門 1

米澤義衛・原田 泰 著

市場経済を考える

中村達也・永井 進・池本正純 著

技術革新と労働の思想

筆宝康之・井野博満 著

家族生活と法—法学入門 1

米倉 明 編

消費生活と法—法学入門 2

正田 彬・浜上則雄・鈴木深雪 著

国際政治

斉藤 孝 著

脳のはたらきと人間の心

河内十郎 著

人類の起源と進化

市川光雄・片山一道・黒田末寿 著

プログラミング入門——フォートランとベーシック

立田ルミ・佐々木勝浩 著

ヨーロッパ現代文学を読む

川上 勉・辻 善夫ほか著

本書のアプローチ

★第一点は、日本経済の長期的・構造的展開過程にみられる特徴を探ってみるということです。とくに戦後に注目してみたいと思います。しかも、本書では、国際比較により、日本経済にみられる特殊性や普遍性を探ってみたいと思います。

★第二点は、「国際化時代」というもののもつ意味を考えることです。とくに、日本経済の国際化といっても、いままで日常的次元の問題としてとらえることに日本人は慣れていなかったと思います。……本書では、日本経済社会の国際化過程の事実を明確にし、そのコストやベネフィット的側面に言及し、いまやこの問題が日本人にある種の意識革命を迫っていることを示したいと思います。

★第三点は、人間観・企業観・政府観・国家観についてです。ある事件をみてそれをミステリアスと受け取るかどうかは、その人がどのような物の見方をするかにかかっています。そして、その謎解きが説得的かどうかは、その見方によってかなり異なってきます。筆者達は、経済的事実をみるに際して、とくにそれが具体的であればあるほど、たんに経済的視点だけでなく、政治的側面にも目を向けてみる必要があるのではないかと思います。

★本書は、以上述べたようなアプローチから、きわめて今日的問題を糸口として、日本経済の基本的側面を論じたものです。

本書「はしがき」より抜粋

はしがき

注目される日本経済　事の良し悪しは別として、気になる人物が一人や二人、必ずやあなたのまわりにいることと思います。あるいはあなた自身が人から気にされているかもしれません。私達の大半がその生活の糧をえている場である日本の経済社会は、いま世界の人々にとって、まさに気になる存在です。日本人を抜きにして経済や経営関係の国際会議をしても、あまり実のあるものとはなりえなくなってきました。そんなに気にされるのはどうしてでしょうか。気にされ、注目されれば、当然さまざまの形で話題にされるようになります。日本経済論とは、まさにこうした日本経済についてのいろいろな話題を、経済学的アプローチによって整理・分析したものです。

注目されるのはなぜか　しかし、学生諸君にとって、日本経済がどうであるかは、あまり気になることではないかもしれません。それにはかなり同情いたします。諸君が高校時代に学んだ『政治・経済』の教科書をみればある程度納得できるからです。高校時代に居眠りしていた唯一つの授業が何をかくそう「政治・経済」の時間だったのです。ところが、いまそれに相当する「日本経済論」の講義を筆者の一人が大学で担当しているのですから、なんとも皮肉なものです。何が彼を目

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

覚めさせたのでしょうか。あるいはなぜ日本経済を気にするようになったのでしょうか。その理由は二つあるように思われます。一つはきわめて日常的・実際的興味です。すなわち、来年の給料はどうなるのか、子供の将来はどうなるのか、老後はどうなるのかといったことです。こうした疑問は大なり小なり諸君のご両親はみな持っていると言ってよいでしょう。こうした疑問について考える時、まず、勤め先の企業の業績が来年はどうなるのか、そして停年頃にどうなっているのかということに思いをめぐらさなければならないでしょう。すると、それでは日本経済全体はどうなるのか、という点に興味が行き着くのは自然なことと思います。しかし、大半の学生諸君にとって、こうした点からの興味は切実なものとはいえないでしょう。なぜか。それはあまりにも明白なことなので、ここで説明するまでもないことでしょう。

あなた方が日本経済に興味を持つとすれば、それは知的興味が大半だと思います。ところで、あなたはいまどんな本に夢中になっていますか。アルバイト情報誌はむしろ実利的興味ですから論外ですが、小説ですか、ミステリーですか、それともノンフィクションものですか。それらに共通している「おもしろさ」というものがあなた方を熱中させるのだと思います。それは、非日常的・非常識的話題が取りあげられ、それを解明していくという、一種の謎解きのおもしろさがあるのではないでしょうか。日本の「経済的事実」の中にも実はさまざまのミステリー的なものがあります。それが経済学者も含めて、内外の人々の注目を集めているのだと思います。とくに、日本以外の人

人になおさらそう映っているようです。

本書のアプローチ　これまでも数多くの日本経済論が書かれ、これからも書かれていくでしょう。書く人の興味や目的に応じて十人十色の日本経済論がありうるはずです。「モナリザの微笑」が尽きせぬ謎を人それぞれに与えてきたように、時々刻々変化する日本経済も見る人の角度によって謎の意味が異なりうるからです。本書はどのような見方からその謎を見出し、その糸を解きほぐそうとしているのでしょうか。

第一点は、日本経済の長期的・構造的展開過程にみられる特徴を探ってみるということです。とくに戦後に注目してみたいと思います。しかも、本書では、国際比較により、日本経済にみられる特殊性や普遍性を探ってみたいと思います。もちろん、必要に応じて短期的・循環的側面にも言及しますが、力点はあくまでも長期的・構造的特徴をみることにあります。

第二点は、本書のタイトルにもありますように、「国際化時代」というもののもつ意味を考えることです。とくに、日本経済の国際化といっても、いままで日常的次元の問題としてとらえることに日本人は慣れていなかったと思います。したがって、経済的事実として具体的イメージとしてさえ思い浮かべることが不得手であったと思います。日本経済の国際化など他人事のようにあなたは考えてはいませんか。本書では、日本経済社会の国際化過程の事実を明確にし、そのコストやベネ

フィット的側面に言及し、いまやこの問題が日本人にある種の意識革命を迫っていることを示したいと思います。

第三点は、以上のような事柄を論じるに際して本書がよって立つ視点――人間観・企業観・政府観・国家観についてです。ある事件をみてそれをミステリアスと受け取るかどうかは、その人がどのような物の見方をするかにかかっています。そして、その謎解きが説得的かどうかは、その見方によってかなり異なってきます。筆者達は、経済的事実をみるに際して、とくにそれが具体的であればあるほど、たんに経済的視点だけではなく、政治的側面にも目を向けてみる必要があるのではないかと思います。こうした点を近代経済学的考え方で統一的にまとめた標準的で入門書的な教科書としては、マッケンジー＝タロック『現代政治経済学』（マグロウヒル社、一九七八年、翻訳なし）などの例があります。こうした教科書などにみられる人間観とか国家観などを言葉で表現すれば、個人主義的人間観とか、国家主義（ナショナリズム）的国家観に近いでしょう。すなわち、個人とか国家は、意識するしないにかかわらず、自分にとってベネフィットと思うものをなるべく大きくし、コストと思われるものをなるべく小さくしようという傾向があるということです。経済的なベネフィットとかコストは比較的数量的なもので表現しやすいのですが、政治的なものはかなりの程度主観的なことは否定できませんが、なんらかの形で秤にかけているに違いないと考えるのです。要するに、ヨイことはなるべく多く、イヤなことはなるべく少なくしたいというごく素朴な意

識が個人、企業、政府、国家の背後からつき動かしていると仮定すれば、かなりの事柄が説明しやすいということです。

本書の性格　本書は、以上述べたようなアプローチから、きわめて今日的問題（カレント・プロブレム）を糸口として、日本経済の基本的側面を論じたものです。そのもっとも大きな目的は、筆者達独自の分析や見解を提示することよりも、経済的事実なるものに対する興味を諸君のなかにかきたてることです。そのための一つの方法がさきに述べた本書のアプローチです。もう一つは、筆者達のつたない分析や見解よりも、もっと優れた研究成果のエッセンスの紹介を中心にしたということです。やはり、名探偵の謎解きの鮮やかさにふれた方が興味が何倍にも増すことは目にみえているからです。こうした点からすれば本書は、ジャーナリズム的なものからアカデミズム的なものへの橋渡し的性格をもつのではないかと思います。もっとも、本書が、両者の良い面での橋渡しとなっているのか、悪い面での橋渡しになっているのかは、読者の皆さんの判断によらざるをえません。

お詫びと感謝の言葉　こうした本書の性格からして、本書をまとめるに際しては、非常に多くの優れた日本経済研究の成果を利用させていただきました。それらが適切に利用されていない場合が

あるかもしれません。その場合には容赦ないご批判をいただければ幸いです。と同時に筆者達の非力をお詫びいたします。

本書は、次のような人達の助力がなければスムーズに脱稿できなかったことと思います。瀬戸明美氏（青山学院大学大学院）、岸敦子氏（同）、川口康裕氏（経済企画庁）の方々に感謝いたします。

最後になりましたが、本書は有斐閣の千葉美代子氏の暖い励ましがなければ誕生しなかったはずです。あらためて感謝の意を表したいと思います。

一九八五年一月

米澤　義衛
原田　泰

目次

第1章　日本経済の発展パターン　——高度成長時代から安定成長時代へ
1　カレント・プロブレム（2）
2　日本経済の発展とその要因（8）
3　日本の経済発展の歴史（17）
4　経済発展の主体的要因（27）
第2章　産業構造の変化　——重厚長大から軽薄短小へ
1　カレント・プロブレム（32）
2　産業と国民経済（36）
3　産業構造と消費者（47）
4　産業構造と企業（53）
5　日本産業の体質変化（62）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第3章　労働市場　――日本的労使関係の特殊性と普遍性
1　カレント・プロブレム（72）
2　労働供給サイドの変化（78）
3　失業の構図（86）
4　労働移動（93）
5　日本労働市場の閉鎖性と日本的労使関係（101）
第4章　金融・資本市場　――護送船団体制から内外自由化体制へ
1　カレント・プロブレム（110）
2　金融の国際化はどの程度進んでいるか（111）
3　金融国際化の意味（116）
4　国際化と金融政策（134）
第5章　技術と資源　――貿易立国から技術立国へ
1　カレント・プロブレム（142）
2　資源小国と「技術小国」（144）

3 資源・技術と経済成長 (148)
4 石油危機と技術の真価 (151)
5 導入技術から自主開発技術へ (154)
6 技術の「生産」「利用」努力 (155)
7 技術立国への道 (164)
8 技術研究開発の国際化のジレンマ (169)

第6章 小さな政府と大きな政府 ——ケインズ型政府からスミス型政府へ
1 カレント・プロブレム (174)
2 大きな政府の出現 (180)
3 政府の借金 (188)
4 政府への内圧と外圧 (197)

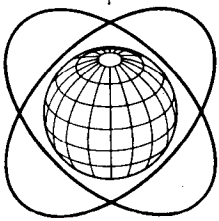
第7章 貿易と直接投資 ——物からサービスの貿易へ
1 カレント・プロブレム (204)
2 自由化と開放化の波 (211)

3 貿易パターンの変遷 (217)
4 国際化のコスト・ベネフィット (232)
第8章 国際収支と為替レート ——勤労型国民経済から資産運用型国民経済へ
1 カレント・プロブレム (252)
2 経常収支の不均衡と為替レートの乱高下 (253)
3 国際収支と日本経済 (256)
4 為替レート変化の意味と役割 (272)
第9章 経済協力と経済安全保障 ——小国的立場から大国的立場へ
1 カレント・プロブレム (288)
2 経済安全保障の構図 (292)
3 経済協力の理解 (301)
4 日本経済の立場と対応 (306)

第1章

日本経済の発展パターン

——高度成長時代から安定成長時代へ



1　カレント・プロブレム

▼経済発展とは何か

この問題を納得するのにもっとも良い方法は発展途上国へ旅をしてみることです。あるいは、この頃の回顧ブームの一環として日本の明治時代や戦前期、戦後直後の写真集が出版されていますが、それを見るのもよいでしょう。私は、学生諸君が海外旅行する場合、最初に行くところは、欧米ではなく発展途上国に行くことを事あるごとに勧めています。それによって、現在の日本人の経済的・物的条件、あるいは社会環境などがいかに恵まれているものかをつくづくと感じざるをえないはずです。

最近、高校生の修学旅行の範囲も、国内よりも近隣の国々、たとえば韓国や中国などの方が安く、時には近いというために、拡大してきました。こうした試みは、経済発展という問題を体で知るという点で大いに結構なことだと思います。しかし、反面、こういう問題意識を持たずにそういう旅行が歯止めがなくなるようになれば、なぜ発展途上国のモノの値段やヒトの賃金が安いのか、といったことに対する思いもなく、いたずらに優越感が助長されてしまうのではないかという危惧を最近私は抱き始めるようになりました。これでは、国際化をさらに進め、さらなる日本経済の発展を

実りあるものにするのに逆行するような世代が生まれてしまいかねません。

本書のタイトルである『国際化時代の日本経済』の「国際化」という経済的意味を自らの問題として主体的に捉えておくためにも、やはり経済発展の基本的意味を認識していただきたいものです。

成長、進歩、発展といった言葉はプラスのイメージをもっています。たとえば、人間の肉体的、精神的成長とかいう場合がそうです。「あなたは以前に比べて進歩しましたね」といわれて悪い気がする人はまずいないでしょう。あるいは、自分の能力や才能が思うように伸びなければイライラします。経済成長、経済的進歩、経済発展という場合、こうした個人的レベルを越えて、国民経済全体の年々の生産能力がどれだけ伸びたか、あるいは国民の生活水準が年々どれだけ向上したか、ということを指しています。

ここで経済発展という言葉とともに、経済成長という言葉も使いました。しかし、経済学の中でこの二つの言葉の意味はやや違いがあります。経済成長という場合、国民経済全体の生産能力なり規模の拡大に重点を置いているのに対して、経済発展という場合、単に生産能力なり規模の拡大というトータルとしての量的な問題だけでなく、それをもたらした産業構造の変化、企業組織の変化、消費スタイルの変化、といったような制度的・質的変化の問題をも包括した広い言葉だということです。

ところで、本章では日本経済の発展パターンについて考えるのですが、この場合パターンとは、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com